

特殊文字

特殊文字はイベントや文字列ピクチャ内で使用できる特別な役割を持った表記文字になります。特殊文字は全て半角で入力する必要があり、大文字、小文字を区別します。

■ 文字の性質変化

フォントを変更

¥font[X] フォントをサブフォントXに変更します。¥font[0]で基本フォントに戻せます。

フォントサイズを変更

¥f[XX] フォントサイズを変更します

¥m[XX] その行の最大フォントサイズを指定します。

フォントカラーを変更

¥c[XX] フォントカラーを変更します、色はシステムデータベース 12 文字色から読み込まれます。

文字の縁取りを変更

¥E 以降の文字列をフチ付きにします

¥N 以降の文字列をフチ無し (=ノーマル,N) にします (※こちらがデフォルト状態)

文字のアンチエイリアスを変更

¥A+ 文字にアンチエイリアスを付与します。文字がなめらかに見えます。

¥A- 文字からアンチエイリアスを解除します。

■ 文字表示の制御

文字寄せ

<L> 直前に表示された文字列を基準に、以降の文字列を左寄せに表示します。左寄せはデフォルトになっています。

<C> 直前に表示された文字列を基準に、以降の文字列を中央寄せに表示します。

<R> 直前に表示された文字列を基準に、以降の文字列を右寄せに表示します。

文字／行の間隔を変更

¥-[XX] XXピクセル分、以降の文字幅を詰めます。XXにマイナスの値を入れると文字が広がります。

¥space[XX] 以降の改行間隔をXXピクセルに変更します

文字をずらして表示

¥mx[XX] 次に表示する文字の座標を、X座標にXXピクセルだけずらします。

¥my[XX] 次に表示する文字の座標を、Y座標にXXピクセルだけずらします。

キー入力待機・非待機表示

¥! 次のキー入力まで文章表示を停止。

¥^ キー入力を待たずに文章表示を終了する。

ウェイト

¥. 0.25秒ウェイト。

文字速度の変更

¥sp[XX] 以降の文字速度を秒間XX文字に変更する

文章の瞬間表示の制御

¥> 次以降の文章を瞬間表示する

¥< ¥>による瞬間表示を中断する

ルビ表示

¥r[文字,ルビ内容] 「文字」に「ルビ内容」のルビを付けて表示する。
ルビの文字色はシステムデータベース 12 文字色のデータ13番目の色を使用。

アイコン表示

¥i[番号] 番号は0~999までの数値
Data内のBasicDataフォルダにある「icon番号.png」の画像を文章中に表示することができます。
ファイル名には、「icon002.png」のようにiconに続けて3桁の数値を入れてください。

画像表示

¥img[ファイル名] Dataフォルダ内にある「ファイル名」の画像を文章中に表示することができます。
ファイルがない場合はエラーメッセージが出るので注意してください。(例: ¥img[ピクチャ¥Test1.png])

半角「¥」の表示

¥¥ 半角の¥に変換されます。

特殊文字

特殊文字はイベントや文字列ピクチャ内で使用できる特別な役割を持った表記文字になります。
特殊文字は全て半角で入力する必要があり、大文字、小文字を区別します。

■ 数値・文字列代入

変数・文字列変数

¥v[XXX]	XXX番の通常変数の値に置き換えます。（例：¥v[3]）
¥v?[XXX]	予備変数?のXXX番の変数の値に置き換えます。（例：¥v1[30]）
¥s[XXX]	XXX番の文字列変数の値に置き換えます。（例：¥s[3]）

イベント/コモンイベント変数

¥self[X]	このマップイベントのセルフ変数X番の値に置き換えます。（例：¥self[3]）
¥cself[XX]	このコモンイベントのセルフ変数X番の値を表示します。（例：¥cself[3]） (X=0~4、10~99なら数値、X=5~9なら文字列を返す)

データベース

¥udb[A:B:C]	ユーザーデータベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。（例：¥udb[1:3:0]）
¥cdb[A:B:C]	可変データベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。（例：¥cdb[1:3:0]）
¥sdb[A:B:C]	システムデータベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。（例：¥sdb[1:3:0]）

データベースのデータ名にのみ使用できる特殊文字

データベース編集時、「タイプの内容設定」での「データ名」において利用可能な特殊文字です。

■ 数値・文字列代入

内容を参照

¥udb[A:B:C]	ユーザーデータベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。
¥cdb[A:B:C]	可変データベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。
¥sdb[A:B:C]	システムデータベースの「タイプA番・データB番・項目C番」の内容に置き換えます。

データID名を参照

¥udb[A:B]	ユーザDBの「タイプA番・データB番」のデータID名に置き換えます。
¥cdb[A:B]	可変DBの「タイプA番・データB番」のデータID名に置き換えます。
¥sdb[A:B]	システムDBの「タイプA番・データB番」のデータID名に置き換えます。

データ項目の内容番号+Xを参照

¥d[X]	データ項目の内容番号+Xの値に置き換えます。 例えばデータ名12の入力欄に¥d[4]と入れると、16になります。
-------	---